

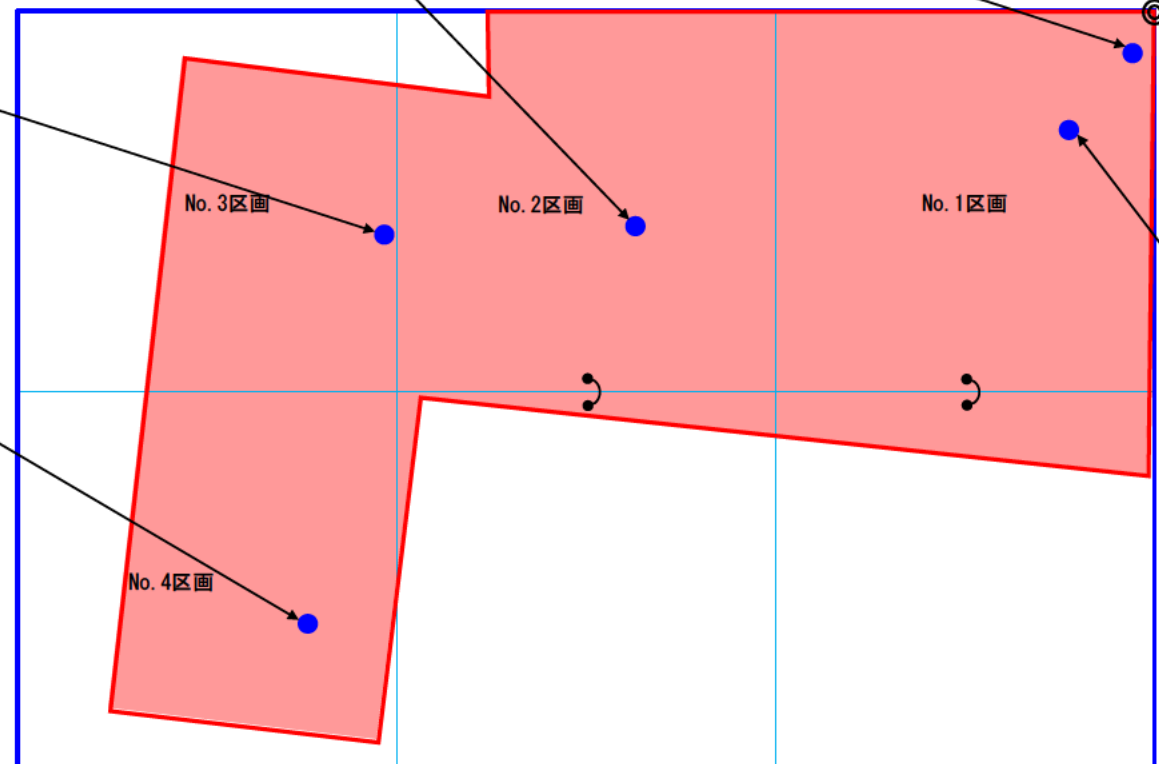
No. 3			
深度		溶出量	含有量
		Pb	Pb
GL (m)	TP (m)	(mg/L)	(mg/kg)
表層 -0.2~-0.7	-0.5~-1.0	0.016	990
-1.2	-1.5	0.008	710
-2.2	-2.5	0.008	210
-3.2	-3.5	—	300
-3.7	-4.0	—	60
-4.2	-4.5	—	20
地下水		0.006	—

No. 2		
深度		含有量
		Pb
GL (m)	TP (m)	(mg/kg)
表層 -0.2~-0.7	-0.5~-1.0	240
-1.2	-1.5	10
-2.2	-2.5	10

No. 1下			
深度		溶出量	含有量
		Pb	Pb
GL (m)	TP (m)	(mg/L)	(mg/kg)
-0.6~-1.1	-1.0~-1.5	0.072	2500
-1.6	-2.0	0.015	120
-2.6	-3.0	0.016	ND
-3.1	-3.5	ND	—
-3.6	-4.0	0.009	—
地下水		ND	—

No. 1					
深度		溶出量			含有量
		TCE	Cr6	Pb	Pb
GL (m)	TP (m)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/kg)
表層 -0.2~-0.7	-0.5~-1.0	0.018	0.10	0.26	1000
-0.9	-1.2	0.007	—	—	—
-1.2	-1.5	0.007	ND	—	—
-0.9~-1.4	-1.2~-1.7	—	ND	0.082	200
-1.4	-1.7	ND	—	—	—
-2.2	-2.5	ND	ND	0.016	20
-2.7	-3.0	ND	—	ND	—
-3.2	-3.5	ND	—	0.009	ND
-4.2	-4.5	ND	—	—	—
-5.2	-5.5	ND	—	—	—
-6.2	-6.5	ND	—	—	—
-7.2	-7.5	ND	—	—	—
-8.2	-8.5	ND	—	—	—
-9.2	-9.5	ND	—	—	—
-10.2	-10.5	ND	—	—	—
地下水		ND	ND	0.008	—

No. 4		
深度		含有量
		Pb
GL (m)	TP (m)	(mg/kg)
表層 -0.4~-0.9	-0.3~-0.8	340
-1.4	-1.3	670
-1.9	-1.8	180
-2.4	-2.3	80
-3.4	-3.3	ND



- ◎ 起点
- 調査対象地
- 10m単位区画
- 30m格子
- 区画統合
- 試料採取位置
- 形質変更時要届出区域
- 掘削範囲

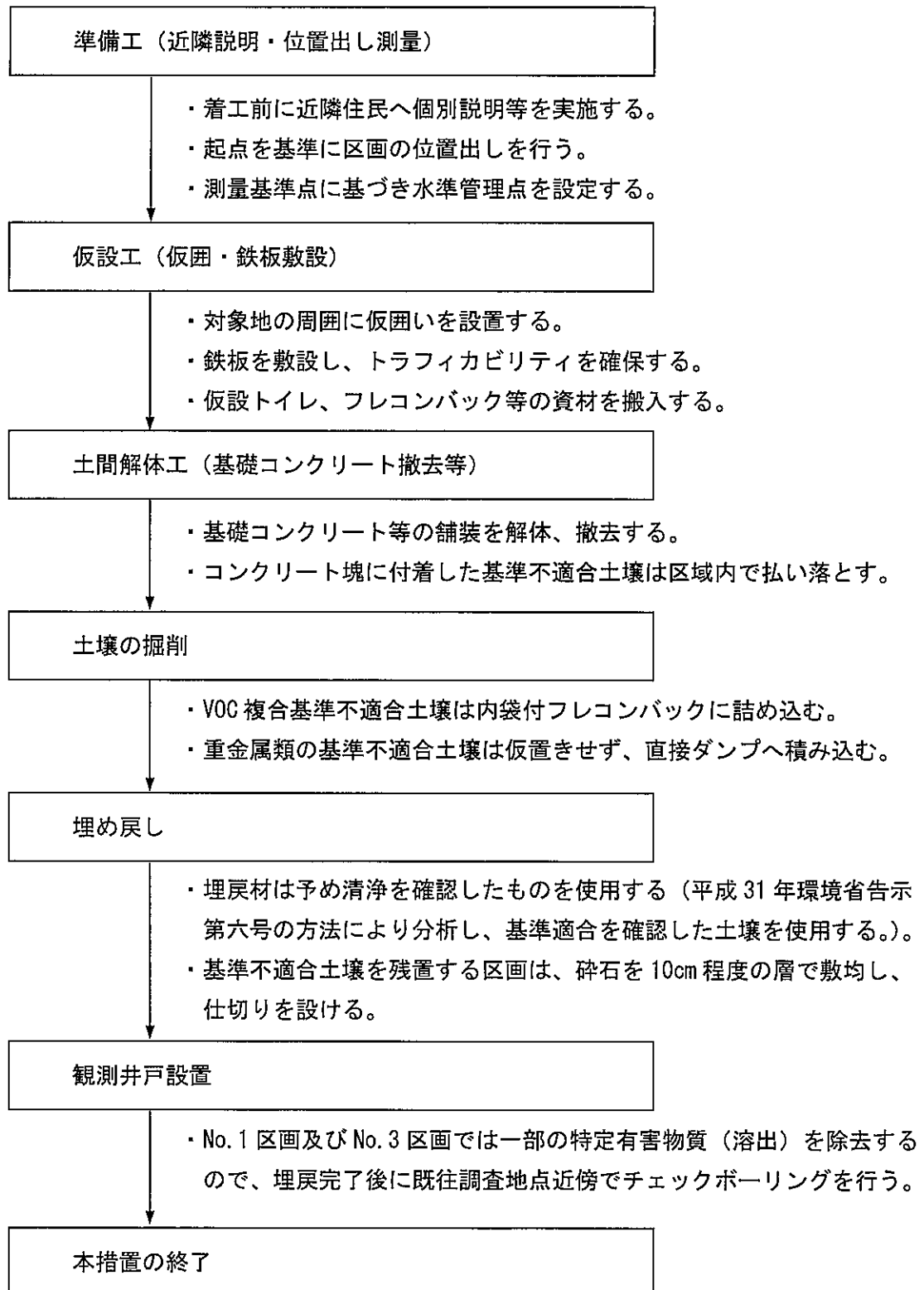


格子回転角：23度28分29秒

土地の形質の変更をしようとする形質変更時要届出区域の状況明らかにした平面図  
土地の形質の変更の施行方法を明らかにした平面図、立体図及び断面図

## 1. 土地の形質の変更の施工方法

### (1) 施工のフロー図



## 掘削土量集計表

単位区画	汚染状態	汚染深度 TP (m)	掘削面積	掘削深度	地下構造物 の体積	搬出土量	
No. 1	トリクロロエチレン（溶出） 六価クロム化合物（溶出） 鉛及びその化合物（溶出・含有）	-0.5m～-1.0m	116.42㎡	1.2m	0㎡	81.49㎡	139.70㎡
	六価クロム化合物（溶出） 鉛及びその化合物（溶出・含有）	-1.0m～-1.7m				34.93㎡	
	鉛及びその化合物（溶出）	-1.7m～-3.0m				23.28㎡	
No. 2	鉛及びその化合物（含有）	-0.5m～-1.0m	103.32㎡	1.0m	0㎡	103.32㎡	
No. 3	鉛及びその化合物（溶出・含有）	-0.5m～-1.0m	51.61㎡	1.2m	0㎡	51.61㎡	61.93㎡
	鉛及びその化合物（含有）	-1.0m～-3.5m				10.32㎡	
No. 4	鉛及びその化合物（含有）	-0.3m～-1.8m	62.23㎡	1.2m	0㎡	74.68㎡	
						合計	379.63㎡

## 周辺環境保全対策

- 1) お知らせ看板を対象地の周囲の外部から見やすい場所に掲示する。
- 2) 作業エリア周辺に高さ 1.8m程度のシートによる仮囲いを設置し、周辺への粉塵等の飛散を防止する。
- 3) 掘削作業中の粉塵による飛散防止対策として、適宜散水を実施する。
- 4) 鉄板を敷設し、タイヤへの基準不適合土壌の付着を防止する。
- 5) 作業終了時には飛散防止のためシートによる養生を行う。
- 6) 掘削時に融資が発生した場合は、関係機関と協議の上、関係法令等を遵守して排水する。
- 7) 対象地周辺道路は狭小のため、適切な大きさの運搬車両を選定し、予め設定した運行経路・徐行ルール等を運転手に徹底する。
- 8) 土間コンクリート等を産業廃棄物として分別する際には、当該区画内で予めケレンし、基準不適合土壌を持ち出さないようにする。
- 9) 基準不適合土壌を搬出する際、内袋付フレコンバックに充填する際には作業範囲をシート養生し、異なる区画の基準不適合土壌の混入を防ぐ。ダンプトラックへ基準不適合土壌をバラ積みする際には、積込終了後は速やかに荷台のシート掛けを行い、基準不適合土壌の飛散防止に努める。
- 10) 作業員の靴底、運搬車両タイヤに基準不適合土壌が付着した際は、靴底等を速やかに洗浄する。
- 11) 基準不適合土壌の飛散流出防止のため、荒天時には作業を中止する。
- 12) 対象地外に基準不適合土壌が流出していない適宜確認し、万一流出等していた際には速やかに回収する。
- 13) バックホウは低騒音・低振動型の機種を選定・使用する。

## その他

- 1) 基準不適合土壌を残置する区画では、掘削床付け面に層厚 10cm 程度で砕石を敷設し、基準不適合土壌と埋戻材の仕切を設ける。
  - 2) 埋戻材は予め健全性を確認した土壌を使用する。
  - 3) 本措置の実施により、No. 2 区画では基準不適合土壌の全部を除去する。No. 1 区画及び No. 3 区画では埋戻完了後にチェックボーリングを行う。これにより区域指定の一部変更を目指す。  
No. 1 区画：トリクロロエチレン（溶出）の全量を除去しチェックボーリング  
六価クロム化合物（溶出）の全量を除去しチェックボーリング  
鉛及びその化合物（溶出・含有）は残置  
No. 3 区画：鉛及びその化合物（溶出）の全量を除去しチェックボーリング  
鉛及びその化合物（含有）は残置
- 尚、既往調査で地下水流向は西から東方向とされているため、チェックボーリングは区画毎に既往調査地点の近傍位置で行う。

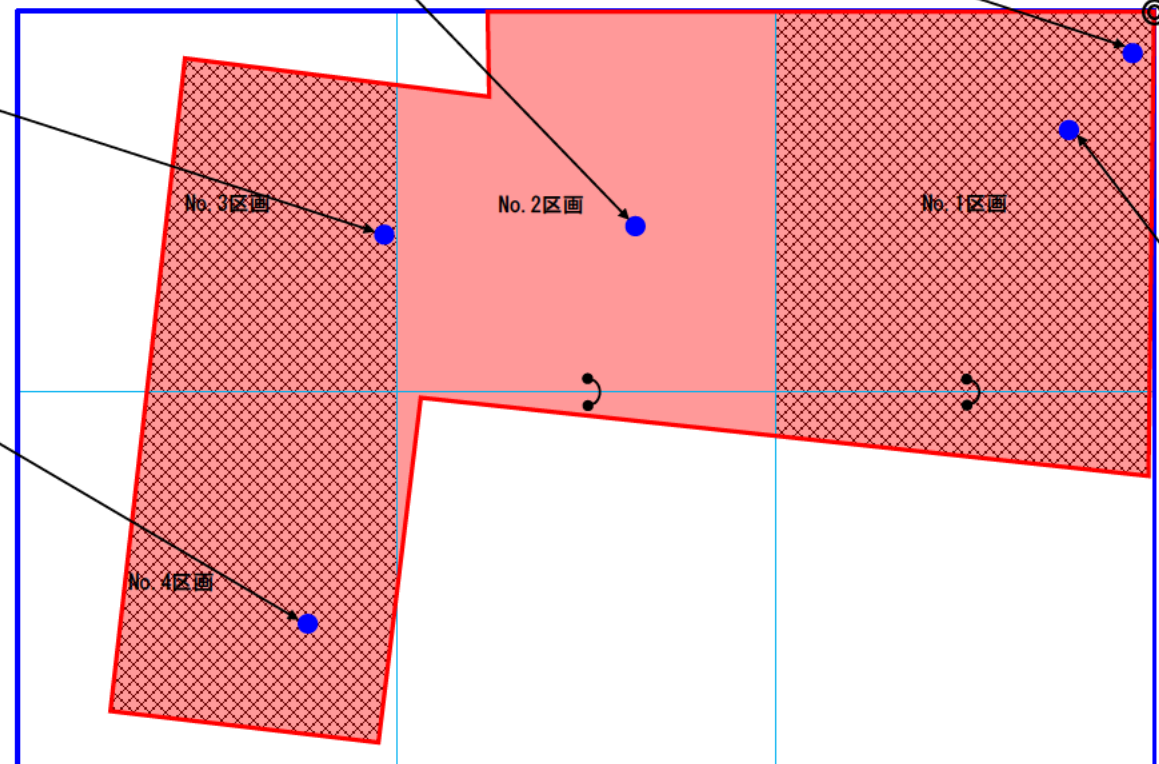
No. 3			
深度		溶出量	含有量
		Pb	Pb
GL (m)	TP (m)	(mg/L)	(mg/kg)
表層 -0.2~-0.7	-0.5~-1.0	0.016	990
-1.2	-1.5	0.008	710
-2.2	-2.5	0.008	210
-3.2	-3.5	—	300
-3.7	-4.0	—	60
-4.2	-4.5	—	20
地下水		0.006	—

No. 2		
深度		含有量
		Pb
GL (m)	TP (m)	(mg/kg)
表層 -0.2~-0.7	-0.5~-1.0	240
-1.2	-1.5	10
-2.2	-2.5	10

No. 1下			
深度		溶出量	含有量
		Pb	Pb
GL (m)	TP (m)	(mg/L)	(mg/kg)
-0.6~-1.1	-1.0~-1.5	0.072	2500
-1.6	-2.0	0.015	120
-2.6	-3.0	0.016	ND
-3.1	-3.5	ND	—
-3.6	-4.0	0.009	—
地下水		ND	—

No. 1					
深度		溶出量			含有量
		TCE	Cr6	Pb	Pb
GL (m)	TP (m)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/kg)
表層 -0.2~-0.7	-0.5~-1.0	0.018 0.014	0.10	0.26	1000
-0.9	-1.2	0.007	—	—	—
-1.2	-1.5	0.007	ND	—	—
-0.9~-1.4	-1.2~-1.7	—	ND	0.082	200
-1.4	-1.7	ND	—	—	—
-2.2	-2.5	ND	ND	0.016	20
-2.7	-3.0	ND	—	ND	—
-3.2	-3.5	ND	—	0.009	ND
-4.2	-4.5	ND	—	—	—
-5.2	-5.5	ND	—	—	—
-6.2	-6.5	ND	—	—	—
-7.2	-7.5	ND	—	—	—
-8.2	-8.5	ND	—	—	—
-9.2	-9.5	ND	—	—	—
-10.2	-10.5	ND	—	—	—
地下水		ND	ND	0.008	—

No. 4		
深度		含有量
		Pb
GL (m)	TP (m)	(mg/kg)
表層 -0.4~-0.9	-0.3~-0.8	340
-1.4	-1.3	670
-1.9	-1.8	180
-2.4	-2.3	80
-3.4	-3.3	ND



※：残置されている基準不適合土壌は1m以上の層厚の清浄土で埋め戻されており、飛散、揮散又は流出のおそれはない。



格子回転角：23度28分29秒

土地の形質の変更の終了後における当該土地の利用方法を明らかにした図面